碧南市民病院 広報誌

ほほえみ

no. 75

2023 January

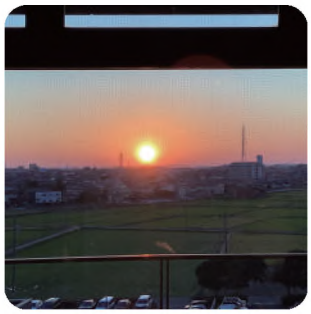
碧南市民病院
Hekinan Municipal Hospital

発行：碧南市民病院広報委員会
碧南市平和町３丁目６番地
TEL.0566-48-5050

TAKE FREE

contents

| 新年のご挨拶
| 入院病棟リニューアル
| 病気のはなし『糖尿病』
| Doctor's File［苦しくない内視鏡検査に自身あり！］
| 入院患者満足度調査



SNSで病院内での明るいニュースや、患者さまが召し上がっている食事の紹介、病院内で見られる季節の花や景色のみどころなどを紹介しています。ぜひフォローください！

ホームページ

Instagram

HEKINAN_MUN_HP

Twitter

基本理念

碧南市民病院は、「温かな心のこもった医療」の提供を病院の基本理念として掲げます

基本方針

1．医の倫理にもとづいて、すべての人に平等に
　人格、権利を尊重して、心のこもった医療を行います。
2．質の高い医療を提供します。
3．安心の医療、心穏やかな医療を提供します。
4．救急医療、地域医療機関連携の推進をします。
5．健全な運営、管理を行います。

新年のご挨拶

新年あけましておめでとうございます。

平成２年に始まった新型コロナウイルス感染症の流行は昨年夏に第７波に至り、二年を経て完全な終息の兆しは見えません。当院では流行初期の院内発生の経験を生かしその後の感染対策に取り組んできました。碧南市の予防接種も順調に進み、当地では大きな混乱なく第７波を乗り切ることができました。今後も基本的な感染防護策を徹底し、with CORONA の時代に病院機能を低下させることなく診療を行ってまいります。

碧南市民病院は今年で開院３５周年を迎えます。やや古くなり使い勝手の悪くなった所を中心に、昨年から病棟の改修工事を進めています。９月に５階西病棟、10 月には５階東病棟がオープンしました。新しく生まれ変わった病棟は白を基調とした明るい雰囲気で、個室へのトイレ造設や単位面積の増加で入院患者さんの療養環境は非常に良くなりました。各階毎に順次工事を進めており、夏までには全病棟の工事が終了する予定です。

当院の基本理念は「温かな心のこもった医療の提供」です。職員全体でこの理念のもと、碧南市の中核病院として病院の機能を維持と医療の質の向上に努めています。着々と進行する少子高齢化の社会で、周辺の病院とも連携強化、機能分担を発展させて、この地域全体の中での役割を果たして参ります。

さて、本号から碧南市民病院の広報誌である「ほほえみ」をリニューアルしました。病院の事を良く知っていただきたい、親しみを持っていただきたいと考え、わかりやすくできるだけ多くの情報をとりいれた紙面にしていきます。Twitter、Instagram でも当院の情報を発信しています。あわせて是非ご覧になっていただきたいと存じます。

今後も碧南市民病院をどうぞよろしくお願いいたします。

2023年8月 入院病棟リニューアル！

入院患者様により心地よく過ごしてもらうため、昨年５月から入院病棟２～５階の改修工事を行っています。
フルオープンは今年８月を予定しています。詳細は次号で紹介します！

フリーWiFiが整備されます！

リニューアルした病室では、病室内でもホールでもいつでも無料でWiFiをご利用いただけます。

病気のはなし

『糖尿病』

傍島光昭（そばじま　みつあき）

糖尿病は、古代エジプトのパピルスに記録されているほど、昔から知られている病気です。現在世界中で患者人口は急増し、とりわけ日本では約６人に１人が糖尿病もしくはその疑いといわれています。
糖尿病は生活習慣病のひとつですが、実際は、糖尿病は生活習慣「だけ」が原因となって発症するわけではありません。しかし、「生活習慣」病という言葉から想像されるように、「糖尿病＝ぜいたく病」という誤解に基づく負の烙印を無意識のうちに押してはいないでしょうか。
かつては多くの人が、失明や下肢切断といった糖尿病の合併症で苦しんでいましたが、近年、糖尿病の治療は飛躍的に向上し、無病息災ならぬ一病息災を実現する人が増えてきました。それでもまだ、糖尿病への誤解や偏見のために差別を受けている人がたくさんいて、その「差別や偏見」は新たな合併症として注目されています。
糖尿病の治療の要となるインスリンが発見されて 100 年が経ちました。次の 100 年は糖尿病がある人もない人も、共に知り、共に歩み、分け隔て無く生活できる 100 年にできればと願います。

Doctor's File

［苦しくない内視鏡検査には自信あり！］

山本 怜（やまもと さとし）

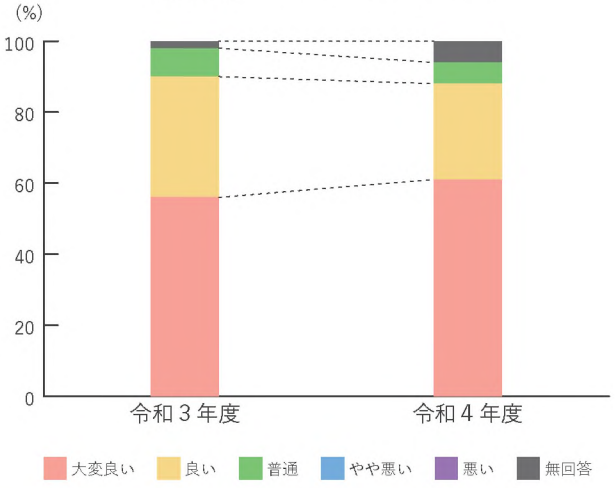
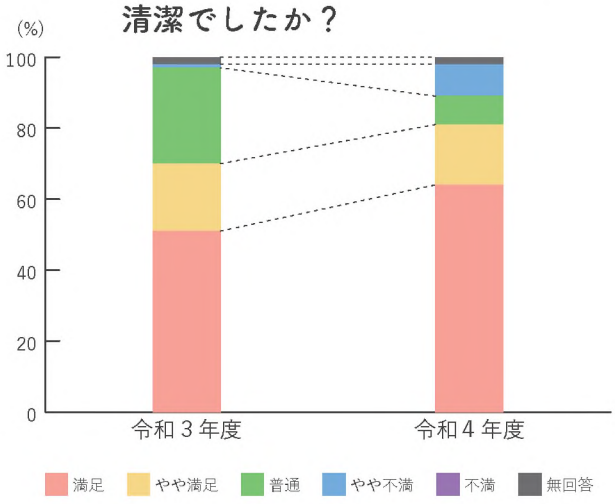
消化器内科では、食べ物の通り道（食道、胃、十二指腸、小腸、大腸、肛門など）の消化管の病気と、消化液を作ったり、その消化液の通り道となったりするところ（肝臓、胆嚢、膵臓、胆管など）のお腹の臓器の病気を扱います。一見お腹とは関係ない症状でも、消化器内科疾患と関連する症状があります。病気を早期診断し、生活の質を第一に考えながら治療を行うことを最大の目標にしています。このために内視鏡、超音波、X線、CT、MRIなどを最大限駆使し、診断、治療にあたっています。

苦しくないように内視鏡検査をすることには自信があります。殆どの場合、大腸カメラも５分あれば最後の腸まで到達するので、検査時間も短く済ませられます。以前より痛くなかった、苦しくなかったと聞くと、より一層の励みになります。逆に痛かった、苦しかったということなら、次回以降鎮痛剤を使用したり、経鼻内視鏡に変更するので教えて下さい。もちろん、はじめから鎮静希望も可能です。意向や希望に寄り添い、できる限りサポートします。体調のことだけでなく、世間話でも構いませんので何でも仰ってください。検査して良かった、受診して良かった、と安心した顔を見るのが私の一番の薬です。

入院患者満足度調査を行いました！

令和４年１０月３日から１０月１９日まで、病棟の患者満足度調査を行いました。５３名の患者様に協力いただき、ありがとうございました。職員の対応について、「大変良い」が前回から５％増加し、８割以上の方から「大変良い」、「良い」というご回答を頂いております。また、施設の清潔さについては前回に比べ「やや不満」の割合が高くなったものの、「大変良い」や「良い」の割合が１０％ほど増加しています。より良い病院となるよう、今後も職員一同尽力してまいります。

対応はいかがでしたか？



病室・トイレ・ダイニングは清潔でしたか？